

学力(学ぶ力)とは、学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと

—中学校・高校・教育委員会での出張授業で考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q 出張授業ではどんなことをお話ししているのですか。

- A (1)公益社団法人経済同友会(東京)、公益社団法人栃木県経済同友会、群馬経済同友会の会員として、中学校・高校・大学・大学院・各都県教育委員会などからのご要請で、生徒や学生、教員、教育委員会の皆様を対象に、毎月、数回、出張授業。
- (2)「仕事とは何か」「働く喜び、大変なことは何か」「何のために働くのか」「学校での勉強は役に立つのか」「これからの社会で求められる能力とは何か」がテーマです。
- (3)毎回、各校からのご要望書に従い「レジュメ」を作成、わかりやすくお話をすることを心掛けています。

Q 各学校時代に身に着けた方がよいことは、何ですか。

- A (1)今学校で学んでいることは、上級学年、上級学校で全部役に立つ。社会に出てからも、仕事、社会的活動、日常生活ですべて役に立つ。よく生きるために役に立つ。一生にわたって役に立つ。死ぬまで役に立つ。
- (2)ですから、予習をしっかり行い、何がわからないかをはっきりさせ、問題意識をもって授業に臨むこと。授業中は、手を机の上に置き、先生の目と口元を見て、しっかりお話を聴く。大切なことは、すべてノートに取る。ノートが取れることやノート整理は、極めて高い言語能力。職場では大切なことをメモし続け、仕事に活かすことが求められますので、授業中にノートを取ることやノート整理は、社会に出る前のよい練習になります。
- (3)その日の授業の「復習」、学んだことの「覚え方」つまり「定着の仕方」を身に着けること。「音読練習(英語なら発音練習)」「大切なことは暗唱」「書き取り練習」「大切なことは、何も見ないで書けるまでにする暗記」「計算・問題練習」の仕方。
- (4)社会に出てからも、試験はたくさんあります。ですから、単元テスト、定期試験、検定試験(英検・漢検・算数数学検定など)、入学試験など、「受験勉強の仕方」も、学校時代に身に着けておくと、社会に出てからの勉強の弾み車になります。
- (5)社会に出てからも、新しく学ばなければならないことが山ほどあります。ですから、その都度、どのように学べばよいのかをゼロから考え悩むよりは、「効果の上がる学習方法」を学校時代に身に着けることが大切です。
- (6)各学校の各学年の各教科で学んだ内容は、社会に出てからもすべて役に立つものばかりなので、学校の教科書、開倫塾など学習塾・予備校のテキスト、参考書、授業ノート、まとめノート、辞書、地図帳、年表などは、決して処分しないこと。「武士の刀」と同じように、いつでも活用できるように身近に置き、折に触れて学び直すこと。

Q 出張授業で一番強調していることは何ですか。

A (1)「学力」とは「学ぶ力」。「学ぶ力」とは、「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」。

(2)学校で学ぶ内容は、すべて役に立つので、学校時代は、学校や開倫塾などで、今、学んでいることを、「自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」を「学力」「学ぶ力」と考え、予習・授業・復習・定着に臨む。定期試験や検定試験、入学試験に臨む。

(3)社会に出てからも、社会に出てから学んだことを、「自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」を「学力」「学ぶ力」と考え、仕事や社会的活動、日常生活、よく生きるために役立てる(活用する)。様々な仕事には、仕事の上で用いる「ことがら」「ことば」「考え方」が山ほどあります。その仕事を行う上で、お客様や仲間、関係各位にお伝えしなければならぬことも山ほどあります。その一つ一つを、少しずつでもよいですから、しっかり学び、「自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」が、ありとあらゆる仕事、社会的活動、日常生活、よく生きる上で求められます。

(4)たとえば、警察官は警察官としての業務を遂行する上で、様々なことを学び、「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」が、求められます。消防士、救命救急士、医師、歯科医師、獣医師、柔道整復師、鍼灸師、看護師、介護士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語療法士、歯科衛生士、歯科技工士、レントゲン技師、自動車整備士、タクシー運転士、バス運転士、コンビニエンスストア店長、弁護士、弁理士、公認会計士、税理士、コンサルタントなど、ありとあらゆる職業で求められるのは、「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」です。

(5)出張授業で一番ご納得いただいているのは、学校でも、社会に出てからも「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」が大切であることです。学校時代は、学校や開倫塾など学習塾・予備校で学んでいることを「自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ようにすること。

(6)学校卒業後は、仕事や社会的活動、日常生活、よく生きるために、「社会に出てから学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)」ようにすること。

(7)「学校時代に学んだこと」にプラスして、「社会に出てから学んだこと」も、「自分のことばでいえる(表現・説明できる)」これが「学力」「学ぶ力」と考えます。

(8)生成 AI などデジタルも大いに活用したうえで、「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」が、これからの時代に求められる能力と考えます。

Q 学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A (1)生成 AI を活用しての「学力向上」が、最大の経営課題となります。

(2)その際、「学力」とは何か、必ず問われます。「学んだことを自分のことばでいえる(表現・説明できる)こと」を「学ぶ力」「学力」と考えることも、ご参考にしていただければ幸いです。

(3)生成 AI 時代を迎えた今こそ、「学力」「学ぶ力」の「再定義」が求められていると考えます。是非、ご検討ください。

Q 最後一言どうぞ。

A 今月も、僭越ではありますが、先生方がお読みになれば必ず参考になる本を何冊かご紹介させていただきます。

(1) 2月8日の衆議院議員選挙で、自由民主党が衆議院で 310 議席以上獲得、2年後の参議院議員選挙に向けて、「憲法改正」の議論が様々な場所で行われると思います。そこで、初心に立ち返り、「憲法」の勉強をゼロから行うことも、大切と考えます。では、「2028年」参議院議員選挙に向けて、先生方が「憲法」の勉強を改めて始めるのにお薦めの本は何か。今月の一冊目は、鵜飼信成著「憲法」岩波文庫、岩波書店、2022年6月15日刊です。本書は、同著「岩波全書」1956年刊の復刊の名著。私は、高校時代から読ませていただき、憲法の勉強が大好きになりました。鵜飼先生は、第二次世界大戦直前の1941年までアメリカに留学、憲法学を研究、戦後の日本国憲法の制定や研究に大きく貢献。ICUでもご指導。本書は、日本国憲法全文も付録についており、これから始まる「憲法改正」の議論の「参考書」として最適と確信します。

(2) 二冊目は、慶大教授・庄司克宏著「EU、統治の論理と思想」岩波新書、岩波書店、2025年11月25日刊です。ロシアとアメリカに翻弄される中、EUはどのような思想に基づき、統一を維持しようとしているのか。日本の立ち位置を考える際に、EUの国家間橋梁の在り方は参考になります。

(3) 三冊目は、東洋大学名誉教授・根本祐二著「インフラ崩壊、老朽化する日本を救う『省インフラ』」、日経プレミアシリーズ、日本経済新聞出版 2025年11月23日刊。破裂する水道管、陥落する道路。学校を始めとする公共インフラの老朽化をどうするか。「教科書」。学校施設などの再利用をお考えの先生の「教科書」です。ぜひ、御一読ください。

(4) 四冊目は、河野龍太郎著「日本経済の死角」ちくま新書、筑摩書房、2025年2月7日刊です。健全財政、自律型財政を目指すにはどうしたらよいか、参考になります。

(5) 五冊目は、毛受敏浩著「移民1000万人時代、2040年の日本の姿」朝日新書、2026年1月13日刊です。移民政策の第一人者、毛受先生の最新作です。

(6) 六冊目は、クリントン・ロシター著「立憲独裁、現代民主主義諸国における危機政府」、2006年10月17日刊です。ドイツ、フランス、イギリス、アメリカにおける立憲独裁を分析した名著です。折角の高市内閣が「立憲独裁」にならないよう、本書を参考に、しっかり支えて参りましょう。

(7) 七冊目は、横山禎徳著「戦略、組織、そしてシステム」東洋経済新報社、2025年12月6日刊です。「戦略は、自分の強さに立脚することが基本」。大賛成です。

(8) 八冊目は、ユーラシアグループ「2026年世界10大リスク」2026年1月6日、ユーラシアグループのHPで発表。世界で一番有名な「リスクマネジメントの最新版テキスト」です。日本への提言もあります。皆様でお読みください。

— 2026年2月12日(木)記—